

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年11月25日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.68】

松崎氏はいつ「永久組合員」になったのか？！

役職のある間のみならず、退任後も、高級専用車とボディガードを組合から提供されていたという東労組松崎元会長だが、本人は、こうした破格の厚遇について、さも当然のことだと受け止めている。前号に続き、「週刊現代裁判」の松崎氏の証言(2009年1月26日)を引き続き紹介したい。

(被告代理人)秘書的な役割ということになると、役職者ではない、顧問でもないといった人であるあなたについて、当然この秘書的な役割をする人の給料は組合から出ていると思いますけれども、これは組合が負担するというのはどういったことでなされているのでしょうか。(松崎)別にどうという意図もありませんよ。(代理人)先ほど言ったように、普通に考えると、役職者であれば、そういった人たちについて組合のお金を支出するということはあるけれども、顧問も退かれると困りますのでこれは是非再考をして顧問にとどまってくださいというような話が、ある意味、社会的には常識的な話なんですけれども、それを振り払って辞めたと、そういう人に対してなおかつ組合のお金を恒常的に支出している、これについては何か問題点というのではないのでしょうか。(松崎)それは、永久組合員ということであるいろいろ話がありまして、昨年(注:2008年)の12月までは私は組合員ですから特に問題は感じておりません。(代理人)「えいきゅう」というのは、永続的という意味の永久ですか。(松崎)そうです。(代理人)Aクラスということじゃないんですね。(松崎)ありません。(代理人)永久ね。(松崎)はい。(代理人)そうすると、組合員なら誰でもそういったサービスを受けられるわけではないですよね。(松崎)それは当然ですね。(代理人)「週刊現代」の記事の中で、組合の役職者でもないのに車をあてがわれてボディガードが2人も付いていると、これらの費用を組合が負担していると、こういうだりがあるんですけれども、この部分は名誉毀損として提訴しておりますか。(松崎)さあ、どうでしょう。よく覚えておりません。してないかもしれませんが、それは。(代理人)事実だからしてないんでしょうかね。(松崎)別に名誉毀損されたとは思いませんからね。多分してないと思います。

高級専用車やボディガードの提供について、松崎氏は自ら「特に問題は感じておりません」「名誉毀損されたとは思いません」と証言しているが、このやり取りを見ると、名誉毀損どころか、むしろ、誇らしく自慢しているように思われる。高級車を次々買い替え、ボディガードを2人も付けるための経費は相当な額に上るだろう。自分が作った組合から厚遇を受けるのは当然、と考えているのだろうか。組合員は、自分のために組合費を収めてくれていると勘違いしているのではないか。

JR総連・東労組の常識は世間の非常識だ！

常識で考えられない松崎氏の優雅な待遇だが、さらに、東労組には「永久組合員」なるものがあるというから驚きだ。規約や規則に定めているなら教えて欲しいものだ。組合員はそのことを知っているのか。どうすれば「永久組合員」になれるのか。

松崎氏は厚遇を誇りに思うのだろうが、「私物化」とみるのが普通ではないか。一般の組合員にとって、とても納得できものではないだろう。これに対し、どの機関や役員からも異論が出ないことこそ、彼らが異常な組織であることの証左であると言える。